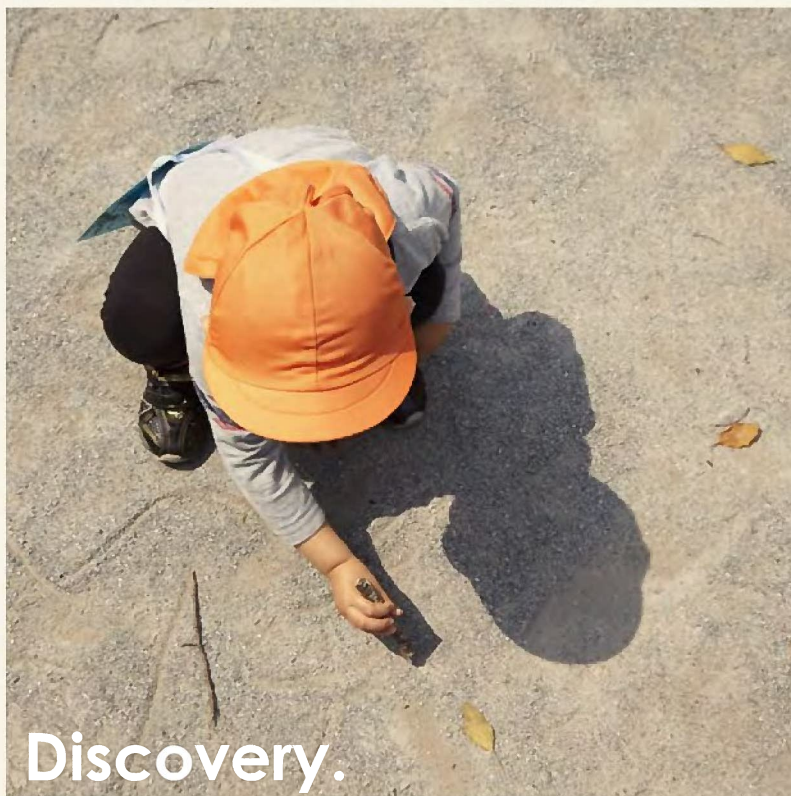


みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

| | |
|------------------|---|
| 第65回福岡地方保育事業研修大会 | 2 |
| 第30回保育まつり記念事業 | 3 |
| 社会福祉法人の公益活動 | 4 |
| 青年部活動報告 | 5 |
| 第51回全国保育士会研究大会 | 6 |
| 公立発信 | 7 |
| 地区研修会報告 | 8 |
| 新園紹介・編集後記 | 9 |

地区研修会報告

古賀・糟屋地区研修会を企画して

わかすぎの杜保育園 園長 大瀧 智子



平成29年8月10日に、糟屋郡須恵町アザレアホールで東京家政大学教授の那須信樹先生を講師にお迎えして、古賀・糟屋地区研修会を開催いたしました。六月に、保育士のキャリアパスに係る研修体系等の構築に関する調査研究協力者会議委員である那須先生のご講演を伺った時に、明快な語り口、説得力のある講演内容、そして何よりも現場経験がある先生の保育者への温かい思いが溢れたお話に感銘を受け、無理を申し上げ今回の研修を依頼いたしました。急遽企画した上にお盆直前だったこともあり、参加者は九十名ほどでしたが、二時間の研修があっという間で、たくさんの学びを得ることができました。

『非認知能力を育む保育・幼児教育とは?いま改めて、「よく遊び、よく学べ」の意味を考える』というテーマで、よく学べの前によく遊べとあるのが、幼児教育の本質を語っているとワクワクしました。冒頭、経済学の視点から、幼児教育の質を高めることが、将来の税負担能力を高め、社会政策費用を抑制することにつながると、ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマンの研究データをもとに話されました。少子高齢化社会の問題は、予想以上の早さで日本社会を脅かしています。様々な政策が打ち出されても、出生率は上がる気配が見えません。このまま労働者が減少し続ければ、社会システムを保持することができなくなります。わかっているつもりでしたが、この危機をもっと重く受け止めなければと思いました。

今年度、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領及び学習指導要領が改訂され、幼保小が同じ視点を持って子どもの資質や能力を育てることが求められるようになります。現在、教育の世界的潮流は、評価しやすいIQ(全般的知能)などの認知的能力よりも、目標を達成する

力や他者と協働する力、情動を制御する力等の非認知的能力をいかに育てるかに注目が集まっています。那須先生も、これからの社会を生き抜き、未来をつくり出すためには、乳幼児期から非認知能力を育てることが大切であると、幼稚園教諭をされていた頃の実践を交えながら、非認知能力について、具体的に伝えてくださいました。

衆議院選挙が終わり、幼児教育の無償化が現実味を帯びてきました。幼児期の教育の重要性に脚光が当たり、保育への期待が高まっています。「保育所・幼稚園・こども園はブラックボックスだ」といつまで言われ続けるのか?と問われた那須先生の言葉が胸に刺さりました。保育所の中で、何を育てるためにどんなことをしているのか、幼児教育に多大な予算を使う正当性を説明することが求められています。幼児期に芽が出て育っていく非認知能力の重要性と育ちのプロセスを全ての人々が納得できるように語らなければなりません。そのためには、PDCAサイクルモデルを意識した組織的な保育をマネジメントする必要があります。同じ園のなかで、保育士同士が保育や子どもの育ちについて語り合い、同じ目標を持って主体的に保育を創造していかなければと思いました。

認可保育所、幼稚園、認定子ども園、小規模保育所、企業主導型保育所等々、様々な形態の子どもが育つ場が増え続けています。子どもの存在をどう捉え、何を大切に育てているのかを社会にアピールしていくことが、認可保育所で働く私達の役割ではないでしょうか。

那須先生のご講演を伺って、専門性を高めること、共通の目標を持って保幼小の連携を行うこと、誰にでも伝わるように子どもの育ちを説明することなど、今後の課題がはっきり見えてきました。さらに研鑽を深めていきたいと思えます。

新園紹介

ぴかぴかの新園を宜しく申し上げます!

粕屋郡宇美町 めばえ保育園

園長 上田 真弘

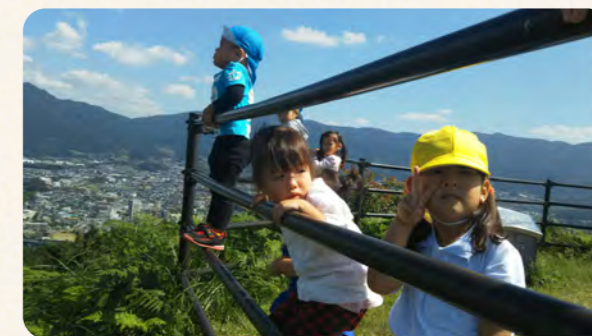
めばえ保育園は、平成29年7月21日に糟屋郡宇美町の井野地区に初めて開所した保育所です。定員は40名と少人数でアットホームな環境のなか、子どもたちが主体となりさまざまな体験をとおして保育者全員で子どもたちを育み、子ども自身がもつ可能性の種をまき、たくさんのめばえがある保育園にしようとはじめました。

保育所の周りには、井野山をはじめたくさんの自然があり、四季ならではの植物や昆虫、小魚やカニといった生き物とふれあうことができます。四季をとおして山へ散策にでかけ、自然に生息する生き物を発見したり観察したりしながら、『ふしぎだな』『なんだろう』『なにを大切に、子どもの思いに気づき、共感し、子どもたちの感性を育てています。』

近くには自然いっぱいの公園もあり、広場でかけまわり思いっきり体を動かしてあそんだり拾い集めた木の葉や落ち葉でごっこ遊びをしたり、日々自然を活

用し生活を送っています。まだ開所して間もないのですが、先日、山頂まで2キロある山を2歳児が興味をもって登り切ってしまいました!山頂までの山登りは3月を目標にしていたのですが、想像を上回る成長ぶりにたくましく育ってくれていること、環境の力と子どもの興味から生まれる行動力の大きさに驚かされました。

また、当園は、遊びの中で自分たちが必要なものを自分たちで創意工夫しながら廃材をつかってものづくりをしたり活用したりする楽しさを味わいます。0.1歳児のころから、保育士の作った手作り遊具で楽しみ、年齢が上がるにつれ、身近にある牛乳パック、トイレトーパーの芯、段ボール、ペットボトルなどの素材を自由に組み立て、自由な発想力や作り上げた喜びを十分に味わうことのできる機会を多く持てる環境づくりを心がけています。



【編集後記】

子どもたちは今、冬の様々な自然、伝統行事を経験しているのではないのでしょうか。さて、4月に新しく保育士になった方たちも半年以上が過ぎ、仕事に意欲がわいてきていることでしょうか。しかし、保育士の離職率の高さも叫ばれ保育の継承が難しくなっています。子ども、保護者への支援の必要性が大きくなってきた現在、保育に何が大切なのか、何が必要なのかをしっかりと若い保育士に伝えていくことの大切さを痛感しています。保育士育てを使命として頑張りたいものです。

広報部 藤吉

第65回福岡地方保育事業研修大会

全ての子どもに笑顔を

一貴山保育園 園長 田中 茂雄

平成29年9月2日(土)福岡県保育協会役員、福岡県、糸島市をはじめとする関係の方々を迎えて、会員450名以上の参加で「第65回福岡地方保育事業研修大会」が伊都文化館において開催されました。

糸島地区は福岡県西部に位置し、豊かな自然と福岡市に隣接する利便性を活かし、近年様々な開発が進んでいる地域です。糸島市保育協会は平成21年の糸島市誕生に伴い、糸島市における私立保育園19ヶ園にて、よりよい保育の在り方について協議し、活動を行っております。

今大会の開催趣旨として、「全ての子ども達の心と身体の健やかな成長を見守り、子ども達一人ひとりへの想いを再確認し、子ども達の明るい笑顔がやさしさと思いやりがふれあう未来を創っていけるよう、本大会を開催いたします。」という文章を入れております。制度が変革の時を迎えようとも、子ども達の笑顔を守っていく使命はいつの時代も変わりありません。私達保育の仕事に携わる一人ひとりが意識をしっかりと持つことが必要であると改めて感じることができた式典となりました。

オープニングは糸島市観光大使として日本内外にて活動する、子ども太鼓集団「糸島二丈絆太鼓」の勇壮な演奏で飾らせていただきました。

糸島市保育協会副会長である金華保育園小富士園長による開会の辞、大会実行委員長であり、糸島市保育協会会長であります加布里保育園古家園長挨拶にはじまり、公益社団法人福岡県保育協会万田会長、福岡地方保育協会椎葉会長よりご挨拶をいただきました。続いて公益社団法人福岡県保育協会万田会長より、56名の方が長年の功績を讃えられ、表彰(一般表彰)を受けられました。受賞者を代表し、りんでん保育園笠信純園長が感謝の言葉とこれからの保育への精進の決意を述べました。その後、ご来賓を代表して3名の方にご祝辞を賜り、次回開催地代表であります、第二赤間保育園小方信二園長先生のご挨拶をいただきました。最後に全員で花のおさなご



を斉唱し大会式典の部を無事に終了することができました。

記念講演は「発達障害のメカニズム-現場の役割-」をテーマに、るんびに保育園園長榎崎雅先生にお話をいただきました。発達に課題を抱える子どもの保育について、現代医学で研究が進んでいる状況を踏まえた上で、保育現場がどのように子どもの事を考え対応していくのかを分かりやすく説明していただきました。また、保育現場と保護者の関係性もわかりやすい例示をしていただき、時代背景の変化に伴う保護者との向き合い方も勉強することができました。

終わりに、本大会を開催するにあたり、公益社団法人福岡県保育協会の役員の皆様、各地区会長の皆様をはじめ、関係各位のご理解とご協力に心より感謝いたします。



第30回保育まつり記念事業

未来へ翔たけ！ おおむたっ子 祝市制100年

大牟田市保育園連盟 副会長・実行委員長 向江 剛

本来であれば、2年前の平成27年度が保育まつりの第30回目に当たる年でしたが、当該年度に会場となる大牟田文化会館の改修工事と重なり、また、翌年の平成28年4月に熊本震災が起こり多大な被害を考慮するとともに、私自身が、実行委員長としての役割を十分に果たすことが出来ず、特に講師選定に際し、大幅に時間を取られてしまい、翌年の開催にも至らず、本年の平成29年9月2日(土)に開催することとなりました。

大牟田市保育園連盟主催による「保育まつり」は32年前に、小学校に入学前の年長児を対象に保育園生活の思い出づくりを目的として始まりました。

開催当初は、私自身も学生時代で、当時の内容等を諸先輩方からお聞き致しましたが、第1回目は小学校の校長先生による就学前の心得等のお話、第2回目は大牟田市警察署長による交通安全指導とお話、第3回目は大牟田消防署長による防火・防災のお話や消防署員によるレスキュー訓練の披露、その後は「劇団 飛行船」の観劇会、うたのおにいさん・おねえさんによるステージ、保育短大の先生によるリトミックなど様々なことが行われて来ましたが、近年では現在まで行われている大牟田市諏訪公園において各保育園が「赤白」に別れ、同じ市内・地域に住む園児達がひとつとなり、みんなで協力しあいながら行なう「運動会」へと変化してきました。

さて、上記のとおり例年開催しています「保育まつり」の記念事業として、今回開催を致しました「第30回保育まつり記念事業」は、テーマを「未来へ翔たけ！おおむたっ子 祝市制100年」と題し開催をさせて頂きました。

当日は、大牟田市保育園連盟加盟17園の年長児(17園)・年中児(11園)・職員が約600名、保護者等が約300名の参加、そして熊本の被災地の2つの保育園から園児・職員・保護者あわせて80数名を貸切バスにて招待させて頂き、文化会館大ホールを埋め尽くす1000名規模となる大きな記念事業の開催と



なりました。

開会式には、大牟田市長をはじめ、市議会議員等の方々にも御参加頂き、「市制100年」のスペシャルゲストとして、子ども達に大人気の大牟田市公式キャラクター「ジャー坊」もかけつけてくれ、大きな賑わいの中で式典が行なわれました。

続く、イベントでは、「エビカニクス」でお馴染みの、あそびうたや体操とストーリーが一体となったミュージックパネルなどの親子コンサート・保育セミナーで活躍されているミュージック・ユニットの「ケロボンズ」を招きました。

楽しい音楽とともに「ケロボンズ」の二人が出てくると、舞台上だけでなく、客席全体を巻き込み、一緒に歌ったり、踊ったりと、会場の園児達はもちろん、保護者、職員、そして最後までお付き合い頂いた市議会議員の方々、全ての人から、素晴らしい「笑顔」がこぼれ、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

イベント終了後も、文化会館大ホール外のホワイエにおいて「ケロボンズ」のサイン会や記念写真撮影なども行なって頂き、最後まで子どもも大人も、十分に満喫してくれたのではないかと思います。

また、本年度大牟田市が「市制100年」ということで、上記のとおり「ジャー坊」が開会式にかけつけてくれたり、また、「ジャー坊」のイラストをポスターやチラシに掲載、記念品のハンドタオルに印刷することも出来、今回、市制100周年と同年に記念事業を開催したことで、うれしい誤算となりました。

最後になりますが、皆様方の御理解・御協力により、無事に記念事業が開催・終了出来たことに心より感謝・御礼申し上げますとともに、今回、第30回目の記念事業を開催したことで、大牟田市保育園連盟が30年にわたり、未来に翔たく子ども達のために実施してきた「保育まつり」の歴史や意義等を、改めて振り返り、見つめなおすことが出来、大変貴重な学びの機会となりました。

社会福祉法人の公益活動

時代に合った、 ふさわしい社会福祉法人 を目指して…

大牟田市地域公益活動協議会 副会長 猿渡 保生



地域公益活動協議会のメンバー

社会福祉法人は、社会福祉法に基づく公益法人であり、利用者の利益を守る民間社会福祉事業の担い手として、また、地域における社会貢献の担い手として、国民の福祉の増進に果たしてきた実績は高く評価されています。

これは、社会福祉法人が公の補完、代替を行うだけでなく、先駆的、開拓的、さらには公共性を保持してきたことに対する社会的信頼であります。

しかしながら、長年の措置制度のもとでは行政からの委託事業が中心になり、自主的な地域への関わりが次第に希薄になってきたという批判があります。社会福祉法人への公的助成、税制優遇措置は制度特有のものではなく、あくまで公益活動に対する措置であることから、今、改めて制度創設の理念に立ち返り、社会福祉法人として、社会的に評価されるために開拓的な公益活動に取り組むものであります。(「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会・設立趣意」…一部抜粋)

そのような状況のもと、大牟田市内の社会福祉法人が結集し、「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会」が平成27年5月に設立されました。現在では、高齢者・障害児(者)・児童・社会福祉協議会の23の社会福祉法人が参画しています。

設立の目的は、社会福祉法人の協議体の設立により、制度の狭間の問題解決を図り、社会福祉法人の地域公益活動を見える化することにあります。

私たちは、各々の職員間でワークショップを実施し、制度では対応できないような狭間の問題を解決できるような仕組み「生活困窮者レスキュー事業」をスタートさせました。

今年で3年目となりますが、みんなで力を合わせて、様々な地域における制度の狭間の課題に、スピードを持って取り組んでいます。

「生活困窮者レスキュー事業」

【主な活動メニュー】

- ①ゴミ屋敷撤去に要する人的対応及び撤去費用の支援
- ②災害避難時の福祉避難所としての役割
- ③緊急避難時の食事・食材・物品等の提供
- ④DV・虐待等の緊急避難のための衣食住の提供
- ⑤家計再建のための最低限のつなぎ資金の貸付
- ⑥若者ひきこもり等、社会復帰のための施設でのボランティア活動・就労支援
- ⑦災害時における人的支援及び車両等の提供



ゴミ屋敷のゴミを一日がかりで撤去



青年部活動報告

九州保育三団体青年部研修会 鹿児島県大会

福岡県保育協会青年部 部長 菊池 圭 (宮ノ陣保育園)



「九州はひとつ!」を合言葉に設立された九州保育三団体、その青年部研修会が今年度は鹿児島県の鹿児島サンロイヤルホテルで『第4回 九州保育三団体青年部研修会 鹿児島県大会』として10月24日・25日の日程で開催され、私たち福岡県保育協会青年部も総勢16名のメンバーで参加しました。大会会場の目の前には勇壮な桜島が噴煙をあげて、まさに鹿児島といった感じでした。今大会のテーマは『共に歩もう、未来への挑戦!～人口減少社会にどう立ち向かうか～』と題して、人口減少社会の中での保育園や保育の在り方について、二日間にわたって様々な分野の講師から色々な提言がされました。現在、保育園を取り巻く問題として待機児童などが挙げられますが、それは一部の大都市に限られたことで、多くの地方都市は深刻な人口減少に直面し、一部の保育園においては定員割れを起こしている状況です。その中で保育を政策の中心に置き出生率が上がっている自治体もあります。このように私たちが担っている保育の仕事とは、単に乳幼児の育成だけでなく、地域社会の活力となる重要な仕事であるということが、今回の研修会を通して改めて感じることができました。

総勢184名の参加者で盛況のうちに幕を閉じた「九州保育三団体青年部研修会 鹿児島県大会」、そのバトンを引き継いで平成30年度の大会は福岡県で開催することとなりました。現在、我々青年部役員一同でこの研修会の企画を進めているところです。大会テーマを「魁! 青年塾～集え、次代を担うリーダー達よ～」として、九州各県から多くの青年保育者が集うこの研修会で、これからの激動の時代に立ち向かっていけるよう深く学び、同じ若手保育者同士で横のつながりを作り、「九州はひとつ」となれるような大会にしたいと考えています。まだまだこれから詳細を詰めていかなければなりません、次回大会で

は多くの人手が必要となりますので、これを機会に青年部への加入を考えてみてはいかがでしょうか。

最後に福岡県保育協会青年部では、これからを担う50歳以下の園長または園長候補者、及びそれに準ずる方の参加をお待ちしております。この青年期にしかできない様々な活動を通し自身の知見を広げ、保育界の未来を担う仲間同士の絆を作り、子ども達の未来ために共に保育を語り合ひましょう。青年部ではあなたの入会を心よりお待ちしております。



【福岡県保育協会青年部に関するお問い合わせ】
青年部事務局 みすず保育園 松永和也
TEL:0942-23-0876

第51回全国保育士会研究大会

つなげよう 保育の輪 ・ 咲かせよう 笑顔の花を

田川郡 香春町立 採銅所保育所 岩丸 由紀

平成29年10月25日、富山県富山市に於いて、越中五箇山麦屋節の厳かで凛とした演奏と舞いに迎えられ、「第51回全国保育士会研究大会」がスタートしました。

一日目の基調報告では、「保育士のキャリアアップの確立と、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てる保育の実現を目指して」をテーマに、全国保育士会会長の上村初美先生より、全国保育士会の取り組みについての報告を聞きました。保育士の処遇改善・キャリアアップの仕組み確立への取り組みや、質の高い保育を実現するための研修の確立などの話を聞き、演台には、保育士会のシンボルマークであるスカンポの花の刺繍が施された立派な旗が掲げられており、保育士会の一員であることに誇りを持つとともに、子どもたちや保護者・地域のため、質の高い保育を目指したいという思いを熱くしました。

続いての行政説明では、厚生労働省子ども家庭局保育課企画官の唐沢祐之氏より、「安心して子育てができる社会を目指して」をテーマに、国の「子ども・子育て支援新制度」や保育に関する取り組みについての説明を聞くことができました。待機児童問題など国の様々なデータをもとに、国の施策について説明を聞き、「子育て安心プラン」に基づいた保育に関する取組の総合的推進について、わかりやすく学ぶことができました。

二日目は、『専門性の向上をはかる「専門職の責務」』というテーマの第8分科会に参加させていただきました。

研究①の秋田県大館市では、公立保育所の主任(9名)が、市内の就学前施設(30施設)を参観し、大館市内の教育・保育の状況を知り、各施設の課題などを把握することから始まり、その現状を踏まえて、主任として勤務園の保育改善に取り組むとともに、主任間で課題の共有を図り、研修のあり方の検討や各園の保育の向上の取り組みを通して、大館市の保育の質の向上を目指していく内容が発表されました。また、様々な職種や未経験者にも保育の共通理解ができるように、「保育のすてっぷ」というハンドブックも作成し、それを活用することで保育の向上につながっている実践も報告されました。

研究②の新潟県蔵王保育園では、新しく赴任した園長が、園の課題をもとに、主任と連携し、職員が本

来持っている力を遠慮なく出し合い、相乗効果が生まれるような職場の雰囲気をつくり、それぞれの主体性を引き出すための管理職の役割や、職員自らが主体性を発揮し、保育に取り組むための研修のあり方を検討していく内容が発表されました。園内研修ワークショップを行い、職員全体で「蔵王保育園のめざす子ども像」を考えるとともに、個々の保育士が取り組みたい「保育の柱」を決めることからスタートし、問題意識の共有化や園内研修を主体的なものとしてできるよう、管理職がコーディネートしていく実践内容でした。

各発表後に、グループで、助言者の椛島香代先生(文京学院大学・同大学院)が提示した内容について協議し、全国各地の保育士・保育教諭の方と意見交流することができました。例えば、「外部研修の取り扱いはどのようにしているか?」では、文書で報告するのみで終わらず、その報告を読んだ他の保育士が感想を添付するという保育園や、研修に行った保育士が、園内で講師役になって研修報告をするという保育園もあり、保育の質を高めるための様々な工夫や方法を知ることができ、貴重な情報交流の場となりました。

椛島先生が、総評の中で、マイケルAオズボーンの「10~20年でアメリカ雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクがある」という言葉を挙げ、未来を生きる人材を育てるためにも、「真の学ぶ力」を育てることの重要性を述べていました。子どもたちの先を見すえて、今、必要な援助は何か?環境設定はどうか?保育士自身がしっかりと問題意識を持ち、専門性を発揮して、子どもたちの心と体を育てていくことの重要性を再認識しました。

よりよい保育を展開するため、現状や課題を把握し、計画を立て、それを実践することで終わらず、保育の振り返りをしっかり行い、子どもの育ちを職員間で共有することの大切さ、そしてそれらを継続的に行うことの大切さを学ぶことができました。

二日間、とても有意義な研修となり、このような研修に行かせていただき、本当にありがとうございました。自身の保育に活かし、今後も保育士会の一員として、保育に誇りと責任を持ち、保育の輪をつなげ、笑顔の花を咲かせていきたいと思えます。

公立
発信

筑後保育所の目指すもの

筑後保育所 所長 井村 伸

【はじめに】

筑後市は、福岡県南部の筑後平野のほぼ中央部に位置し、北は久留米市、東は八女市、南はみやま市、西は大木町に隣接しています。市域は東西7.5km、南北8.2km、総面積は41.78km²となっています。市の中央部で国道209号と442号が交差し、南部には九州新幹線筑後船小屋駅、東部の八女市との境には九州自動車道八女ICがあり交通の要衝となっています。また、県営筑後広域公園や船小屋温泉、HAWKSベースボールパーク筑後などがあり、スポーツやレクリエーションを目的に多くの人々が訪れる憩いの場となっています。

市内には13の保育所(園)があり、筑後保育所は唯一の公立保育所です。

【めざす子ども像】

- 心身ともに 健やかで元気に遊び、よく食べる子ども
- 美しいもの・やさしいものに感動する感性豊かな子ども
- 自分の持っている力を出し、最後までやり遂げる意欲と自主性をもって創造豊かに遊べる子ども

【保育をするにあたって大事にしていること】

「心身ともに元気に遊ぶ」

遊びは、子どもたちの好奇心が刺激されたり、全身を使って楽しめたりする遊びを心がけています。体も、心も、頭も汗をかいて、保育士も一緒に楽しむことが大事なことだと考えます。

「子どもたちの主体性を大事にする」

いろいろな場面で、スムーズにいかなくなったり、トラブルでつまづいたりしたときに、答えを教えるのではなく、どうすればいいのかを自分で、みんなで考えてみようという関わり方が大事だと考えます。

「感動や感性を大事にする」

大人は常識と思っていることでも、子どもたちなら



餅つきで地域との交流

ではの感性でとらえ、そこに感動や発見があります。そういうものに共感することが大事だと考えます。

「安全への配慮」

想像力を働かせて子どもたちの行動を予測して対応していても、予想外のことが起こることもあります。また、体調や環境によっても行動が違ってきます。個々の特徴や性格なども考慮しながら、安全を確保しています。

「自然や人とふれあう」

子どもたちが心身ともに健やかに成長していく上で、自然や人とのふれあいは、とても大事なことです。日頃の散歩や溪流へ出かけての川遊び、全園児が参加する登山などを通して、季節ごとの木や草花、生き物に触れ、自然を感じています。また、積極的に地域の行事に参加したり、保育所の行事へ地域の方を招いたりして、様々な年代の人たちと交流しています。

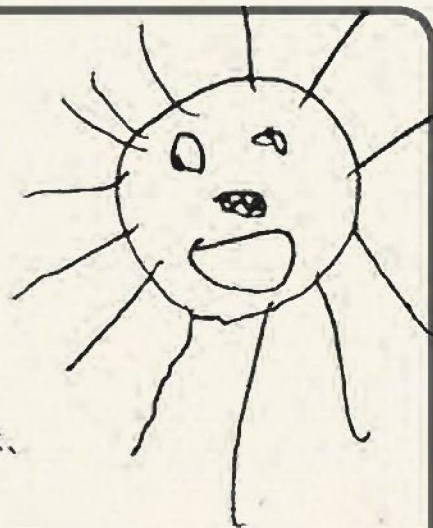
【おわりに】

市内唯一の公立保育所として、これからも、市内の私立保育所(園)等との連携・交流・支援を継続し、保育と子育て支援の質・機能の向上により、全ての保育所(園)利用者及び地域の子育て家庭の不安等の解消を図り、筑後市が、安心して子どもを産み、子育ての喜びを感じられるまちとなるよう努めてまいります。



羽犬(はねいぬ)のはね丸

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん (旧：全私保連保険制度)

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する
共済制度(こども総合保険)です。
保育者にとっては一般契約に比べて
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保
険・学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・
こども総合保険の概要についてご紹介したもので
す。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧
ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私
立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、
ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会
社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっ
ては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

